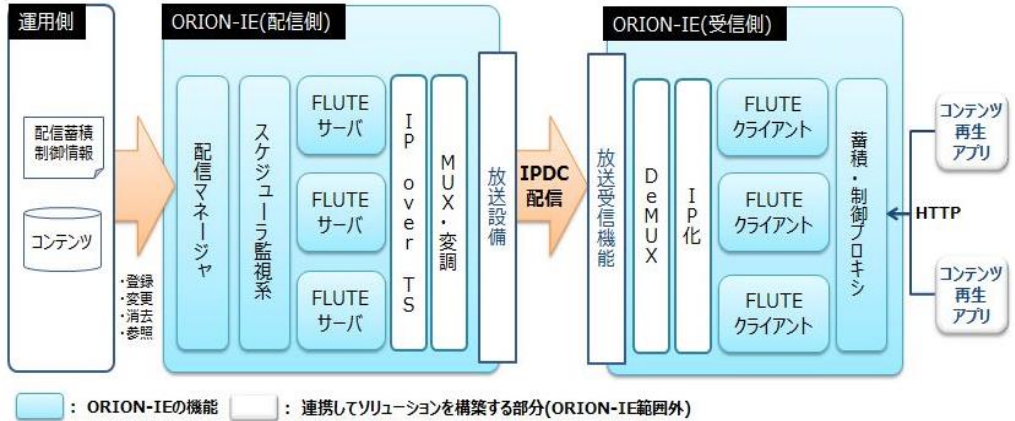


ORION-IE 通信・放送融合IPDC送受信ソリューション

ORION-IEとは

放送波/光ファイバー/ケーブルテレビ等の片方向デジタル伝送路を活用してIPパケットを伝送する仕組みは、IPデータキャスト (IPDC) と呼ばれており、固定受信および移動型受信での市場展開が各国で始まっています。NEXTWAVEの「ORION-IE」は、IPデータキャストで最も基本的なファイル配信プロトコルであるFLUTEプロトコルに準拠し、アプリケーションレイヤーでの片方向誤り訂正(FEC)や、ファイル蓄積PROXY、ストリーミングPROXYを組み合わせた、総合的なIPデータキャストソリューションです。

ORION-IEソリューション概要



ORION-IEの3つの特徴

特徴	内容
特徴1： FLUTE配信機能	<ul style="list-style-type: none"> ・弊社にてRFCに準拠したFLUTE実装を実施。機能拡張依頼やサポート依頼に柔軟に対応可能 ・他ベンダーのFLUTE実装と相互運用テストを実施 ・FDT配信間隔や、データの繰り返し配信数、配信間隔を設定可能 ・配信ファイル名の日本語化に対応 ・詳細な配信経過ログの取得が可能 ・FDTインスタンスとファイルオブジェクトの伝送を連携し、バーストの防止と帯域利用の効率化を実現 ・V-High帯マルチメディア放送 (ISDB-Tmm) への早期対応 ・FDTインスタンスとファイルオブジェクト伝送の連携による、バーストの防止と帯域利用の効率化
特徴2： 配信管理機能	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細な配信スケジュール設定 (開始、終了日時指定) ・配信状況をWEB画面で確認 ・FLUTEのログをWEB画面で確認 ・FLUTE配信の死活監視、通知機能 ・WEB画面からの配信設定 (パラメータ手動入力方式) と、パッケージファイルのアップロード (配信計画パッケージング方式) の両方に対応
特徴3： 受信側機能	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄積制御プロキシを配置し、WEBに対応したビューアであればサービスの提供が可能です ・蓄積制御プロキシの機能追加により、配信後のコンテンツに対しての制御など拡張できます

システム構成

実行環境

■ ORION-IE送信側

Linux (CPU x86 x64) → CentOS5.4にて動作確認
Windows (CPU x86) → XP、Vista、Win7にて動作確認

■ ORION-IE受信側

Windows (CPU x86)
Linux (CPU x86 x64)
Android OS 1.6 以上

※動作確認済み機種についてはお問い合わせください

必要なソフトウェア・ライブラリ

■ ORION-IEのFLUTEに必要なライブラリ
expad 1.95以上

ORION-IEが選ばれる理由

ORION-IEは新しい放送方式への対応はもちろん、進化する各種の通信方式でのマルチキャスト配信にも対応し、マルチネットワーク型のシステム構成を実現できます。またFLUTE/AL-FECに対応した放送システムで、放送局様をはじめ、幅広くご支持をいただいております。

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社ネクストウェーブ
東京都港区赤坂1-3-5赤坂アビタシオンビル6F
Email : info@nextwave.jp
※お問合せはEmailでお願いいたします